

資料に親しむ会 令和3年度第8回

## 「画譜・図案集に親しむ

## ～明治時代のデザインブック～」

京都府立京都学・歴彩館職員が「画譜・図案集に親しむ～明治時代のデザインブック～」を、下記のとおり開催しました。

### 記

■ 日 時 令和4年3月8日（火）14:00～15:00

■ 場 所 京都府立京都学・歴彩館1階 小ホール

■ 参加者数 参加者 41名

■ 内 容 殖産興業のため輸出品の主軸として生産された明治時代の工芸品は、その意匠・図案が重要視された。万博や内国博を彩った工芸品には画家がその図案を担い、写実的で絵画的な意匠が評価された。画譜は、その新しい図案の受容に呼応し明治半ば以降には専門の図案家も登場して数多く出版されるようになった。絵画でもなく紋様でもない、デザインブックが登場することとなった。木版刷の画譜・図案集に特化して紹介。

### ■ 参加いただいた方々のご意見（参加者アンケートより）

- デザインブックという視点は新鮮だった。
- 系統だった話だった。
- 資料を手にとってたくさん見られたのでよかった。
- 自分の全く知らない世界が知れてよかった。
- 府立図書館からの流れがわかりました。

（講座の様子）

